

## ICTも、霞ヶ関も、 ガラパゴスにするな!!

若いつもりが「情報通信行政」に足を踏み入れて20年以上が経過しました。仕事に醍醐味を感じ続けて来られたため、時が飛ぶように流れ過ぎたのだと思います。

何をしているのか?端的に言うと「情報通信技術 (ICT) を使って世の中を良くすることを行政の立場からサポートしている」ということになります。

### コンセンサスを得るためのプロセスの変化

行政の役割は私の入省当時に比べて大きく変わったと実感しています。例えば、行政の仕事の一つである「ルールづくり」について、当時は関係者が限定されていたこともあって、行政は法律や省令などの国のルールを策定することを前提に関係者にヒアリングをしていたように記憶しています。

今はどうでしょうか?ICTは我々の生活に浸透しており、個人情報やセキュリティなど多くの課題を合わせ持つなど、ICTの世界には多様な関係者が存在します。このため、課題への対処についても、直ちに国のルールを策定するという発想には至らず、関係者の間でのルールづくりのコンセンサスを得るところからはじめ、そのために話し合いの場を設けることが多くなりました。

その話し合いの中で、まずは民間主体で自主的なルールを定めて課題に対処してみよう、とか、初めから国の規制を導入した方が良いのではないかといった方向性を固めていきます。このように、行政には「マルチステークホルダープロセス」によって合意を形成する能力がこれまで以上に求められています。

### 自分の中の「常識」を磨け!

例えば、私が現在担当している仕事に「情報銀行」というものがあります。これはパーソナルデータの利活用を進めるための構想の一つです。個人情報保護法との関係を整理しつつ、ユーザが安心してパーソナルデータを預ける社会的な仕組み(=民間のルール)を構築することができないかと、法律やセキュリティの専門家、消費者団体、関心のある企業・団体などと一緒にルールづくりに取り組んでいます。内閣官房情報通信技術 (IT) 総合戦略室、個人情報保護委員会事務局、経済産業省とも連携した取組です。

多様な関係者から意見を聞きますが、最後は総務省の担当者が方針について腹を固めることが必要です。ここで何が一番の決め手になるか、それは「常識」だと考えています。「既存のルールでこう決まっているから」ということではなく、様々なものを見て聞いて得た自分の「常識」が判断の決め手となります。皆さんにも、社会に出る前の限られた時間で多くのことを見聞きて、自分の中の「常識」を磨いて欲しいと思います。

### 霞ヶ関をガラパゴスにするな!

ICTが世の中に広まっていくためには、インターフェースやデータフォーマットの標準化など、ネットワークが繋がれることを前提とした官民の取組が決定的に重要です。他者との互換性を失った「ガラパゴス」になってはいけません。仕事の輪を広げていくことも同様です。霞ヶ関(行政の仕事)も「ガラパゴス」になってはいけません。インターフェースが悪かったり、データフォーマットが標準化されていないとネットワークが繋がらないのと同じように、「コミュニケーション能力」や「常識」がないと行政の仕事も成果を得られません。

職場の尊敬する先輩の一人が「山登りをしていると数メートル登ると随分と景色が違う」と話していたことがあります。いろんな解釈ができる言葉ですが、皆さんがそれぞれの「常識」を持ち込み、共に総務省からの眺めを楽しむ日が来ることを心待ちにしています。

総務省 情報流通行政局 情報通信政策課 調査官

## 飯倉 主税 Chikara Iikura

平成 7年 4月 郵政省採用  
 平成 9年 7月 米国留学(南カリフォルニア大学)  
 平成 10年 7月 科学技術庁研究開発局宇宙政策課調査国際室  
 平成 13年 1月 総務省郵政企画管理局総務課調整係長  
 平成 13年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課課長補佐  
 平成 16年 7月 近畿総合通信局放送部有線放送課長  
 平成 17年 8月 和歌山県企画部IT推進局情報政策課長  
 平成 19年 8月 総務副大臣秘書官  
 平成 20年 8月 総務省情報流通行政局地上放送課課長補佐  
 平成 23年 9月 同 情報流通行政局総務課統括補佐  
 平成 24年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課企画官  
 平成 24年 12月 総務大臣秘書官  
 平成 26年 9月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課電気通信利用者情報政策室長  
 平成 27年 7月 同 情報流通行政局放送政策課企画官  
 平成 28年 6月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課調査官  
 平成 29年 7月 現職

## Voice of the young staff



総務省 情報流通行政局  
情報通信政策課

津野 政吾

(平成28年入省)

現在、私は東京2020大会に向けた、最先端のICT政策の企画立案に携わっています。具体的には、訪日外国人がスマートフォン、交通系ICカードを使ってスムーズな移動、観光、買い物などを体験できるようにすることを旨とした「IoTおもてなしクラウド事業」の実証事業に取り組んでいます。このような前例のない新しい取組では、若手職員には、上司が気付かなかったような新しい視点からの気づきが求められており、自分の意見が取り入れられ、実際に政策に落とし込まれて身近な現実が動いていくのを目の当たりにできる点にやりがいを感じています。

飯倉調査官は働き方改革の先兵のような方で、お子さんが産まれた部下の方に率先して休暇を取ることを勧める等、ワークライフバランスの充実を私達に奨励して下さいます。また会議になると皆が納得するような解決策を取る等、その調整力には日々勉強させられます。私も飯倉調査官の姿勢を学び取りながら、柔軟かつ謙虚に様々な声に耳を傾け、適切な判断ができる行政官に成長していきたいと思っています。



子ども達が大好きな雪遊び! @会津芦ノ牧温泉のスノーパーク

### Project

## 情報銀行 — パーソナルデータの新たな取組 —

成長戦略の一環として、データの利活用が重要なテーマとなっています。そのなかでも、パーソナルデータは期待が大きい反面、個人にとっては情報漏洩などの懸念があるのも事実です。そのために検討されている仕組みの一つが「情報銀行」です。これは個人が預けたデータを「情報銀行」が個人に代わって第三者に提供してくれる大変便利なものですが、個人が安心してデータを預けるためには社会的な仕組みが必要となります。そのため、多様なステークホルダーが集まってもらい、民間において認定制度・ルールづくりに向けた検討を進めています。このパンフレットができる頃には幾つか認定もされて、パーソナルデータを使った新しいビジネスがスタートしていることを期待しています。



週末に子どもとラザニア作り